

原則として「現認書」によりますが、「事実証明」の場合は、役職に限らず最初に報告を受けた者が作成し、いずれかを○で囲んでください。

現認書 ・事実証明書	
被災職員	団体・所属 〇〇市〇〇部〇〇課
	職名 庶務係長
	氏名 基金太郎 (男) 40 歳
災害発生日	平成 29 年 2 月 3 日 (月) 午前 11 時 00 分頃
災害発生場所	〇〇市役所西側階段踊り場 (3階と2階の間)

《災害の状況》

- ①誰が **私は、**
- ②何のため **被災職員である基金係長と同じ会議に出席するため、**
- ③いつ、どこで **〇〇会議室に向かう途中、階段をおりて3階と2階の踊り場で、**
- ④誰が **基金係長が**
- ⑤どうなったので **転倒し、右膝を廊下に強打するのを見ました。
「大丈夫ですか。」と声をかけると痛みがひどく歩くのが困難とのことだったので、**
- ⑥どうしたか **付き添って庁舎内の診療所に連れて行きました。**

※事実証明の場合は、「**口頭 (電話)**」で報告を受けたことを証明します。」で終わります。

上記のとおり **現認**・事実証明 いたします。 ← **いずれかを○で囲んでください。**

平成**29**年**2**月**14**日

証明職員	所属	〇〇市〇〇部△△課
	職名	庶務係長
	氏名	山形愛子 (印)
	所属	
	職名	
	氏名	(印)

地方公務員災害補償基金山形県支部長 殿

所属長である必要はなく、現実には災害を見るか、最初に報告を受けた職員です。